



## 第1地域 台北国際大会推進チーム 岡村 睦美（川口 RC）

2026年台北国際大会は6月13日～17日に台北ドームにて開催されます。日本チーム推進委員長は出村知佳子さん(第2510地区 札幌北ロータリークラブ)です。「RI理事主催親善朝食会」は2026年6月14日7:00AMより圓山大飯店12階で執り行われます。私たち推進委員は万人の登録参加を目指していきます。台湾は日本から近く、多くのクラブが友好、姉妹関係を結んでおり馴染みの深い国です。台湾の次に登録者数が多いことを目指しています。

ロータリー章典に記載がございます通り、国際ロータリー年次大会の主な目的は、国際レベルにおいて、全ロータリアンを刺激、鼓舞、激励し、かつ情報を与えること、ならびに組織の戦略目標を進展させるためのフォーラムとして機能することです。この年次大会は国際ロータリーの年次業務会合にもあたります。

国際大会の登録を許可されたものには 1.ロータリアン 2.ローターアクター 3.インターアクター 4.青少年交換学生 5.財団奨学生 6.ロータリアンではないロータリー学友 7.ロータリークラブ、各地区の職員 8.故人となったロータリアンのパートナーです。

国際大会への登録を希望するこの他の人は、資格のある大会登録者に同行する有料のゲストとして登録することができます。全ての国際大会登録者は、理事会が定めた該当する大会登録料を支払うものとします。故人となったロータリーシニアリーダーのパートナーがロータリアンではない場合は、ロータリアンのゲストとしてではなく、独自に国際大会に登録することが認められています。

国際大会では、ロータリーについて広報する重要な機会が与えられています。また、出席しているロータリー会員にクラブや地区の広報活動に関する貴重な指針と意欲を提供します。

国際大会中の全ての会議はロータリーに関連した話題について話されます。主な講演者、ロータリー会員ではない講演者の話には、話題をロータリーに関連づけるようなものになっています。

本会議におけるプレゼンテーションは、RI戦略計画と一貫性のあるものとなっています。

何といたっても国際大会に参加すると自分が国際ロータリーの一員であるということを自覚し、大勢の多国籍の人達との友情を育む機会として貴重な体験ができます。

まさに国際ロータリーの一員であるという醍醐味を実感し、国際大会参加者は退会しないという過去の実績もあります。

国際大会に参加することによってしか味わえない貴重な時間を皆様と共に過ごせることを願っています。

御家族、友人、ロータリー会員ではない方々にも、ぜひお声掛けいただきたく思います。

日本から万人の笑顔で会場を埋め尽くしましょう！





ポリオ根絶に向けた草の根の運動

## 第2地域 ポリオ根絶コーディネーター(EPNC) 柳生 好春 (野々市 RC)

先ごろ、2024-25 年度「ポリオプラスへのクラブ参加率」が地区単位で明らかになりました。

第一地域平均 86,09%、第二地域 89,78%、第三地域 83.55%と世界 41 地域中のトップスリーを占めました。100%地区も 6 地区あり、2540、2570、2820、2760、2780、2660 の各地区です。

34 地区平均は 86,27%であり、世界の平均は 61,9%となっています。

特筆すべきは、2021-22 年度の 34 地区平均 72,5%に対し、この 3 年間で 13,77 ポイントアップしたことです。ポリオプラスに対する理解と寄付が着実に進んでいることが分かります。日本のロータリーの素晴らしさの 1 つです。

また、DDF20%以上寄付地区は第一地域では 2510、2540、2550、2830、2840 の 5地区、第二地域は 2580、2600、2610、2750 の4地区、第三地域は 2640、2650、2670、2680、2690、2710、2730、2740 の 8 地区で世界 41 地域中、第 4 位の高額寄付地域となっています。

1988 年に GPEI ができた当時のポリオは 125 か国、症例数は 35 万人にも上りました。

現在はその当時から 99,9%減少し、もう一步のところまでできています。そこで 2016 年にアメリカのオレゴン州から始まった「ポリオプラス・ソサエティ」(PPS)の認証制度が注目されます。毎年 100 ドルを「ポリオプラス基金」に寄付することを誓約することによって「ポリオプラス・ソサエティ」のメンバーとなるものです。メンバーになると登録証とピンバッジが贈呈されます。

日本ではいま、1 人あたり 30 ドルをポリオプラスの寄付目標額としています。その金額に 70 ドルを上乗せしてもらえばよいのです。

R 財団情報に「毎年、財団への寄付総額のうち 500 万~600 万ドルは、25 ドル~99 ドルの寄付によるものである。すべての会員が毎年寄付すれば、人々の人生を変える持続可能なプロジェクトが可能となる。金額の大小ではなく、すべての寄付が大きなインパクトをもたらしている」があります。このような考えに基づき、PPS を推進することこそポリオ根絶の草の根の運動と言えるのではないのでしょうか。

※GPEIとは「世界ポリオ根絶推進活動」で、RI(国際ロータリー)、WHO、UNICEF(国連児童基金)、CDC(米国疾病対策センター)、ゲイツ財団、GAVI(ワクチンアライアンス)の 6 団体がポリオ根絶に向けて連携している





### 第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター 堀川 貴史（熊本南 RC）

ロータリー財団の年次基金-シェアへの寄付が、3年間投資された後に地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)に配分されます(5%は運営費)。これをシェアシステムといいます。2025-26年度から、各年度末に5年を超えて未使用であるDDFは、地区の裁量で、ポリオプラス、ロータリー平和センター、恒久基金、災害救援基金、WFのいずれかに再配分されます。地区が2026年6月30日までに資金の配分先をロータリー財団に通知しない場合、未使用のDDFは2026年7月1日にWFに充当されます。これは毎年多額のDDFが使われずに繰り越されることを懸念して2021年に制定されました。DDFを使用して財団を支援する方法について、各地区でご検討ください。



ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。その象徴がまさにポリオ根絶です。ロータリーでは1985年に「ポリオプラス」を開始し、1988年にWHOとともに「世界ポリオ根絶推進活動」を立ち上げ、活動してきました。現在はパキスタンとアフガニスタンを残すのみです。世界で最後にポリオが残っている地域が情勢不安定な地域であるのは偶然ではなく、疾病と戦争は古くから結びついているのだと、テドロス・アダノム WHO 事務局長は昨年度の国際大会で語りました。

10月24日は世界ポリオデー。私には夢があります。それは「世界ポリオデーを、バレンタインデーのような市民行事に育てる」というものです。2月14日にチョコレートや花束を贈り合う姿が世界の街中でみられるように、10月24日には赤いTシャツを着た人々が街にあふれ、ポリオ根絶と世界平和が自然に語られる、そんな光景を思い描いています。

夢物語に聞こえるかもしれませんが、その第一歩は、私たち自身が踏み出すことから始まります。職場のスタッフと一緒に赤いTシャツを着る、「世界ポリオデー特別例会」を企画して赤いTシャツで揃える、インターアクトやローターアクトと連携して地域でアピールする。小さな行動が社会を巻き込み、世界を変える大きなうねりに成長します。

それは単なるパフォーマンスではなく、社会に強烈なインパクトを与え、ロータリーの公共イメージを高め、寄付や協力の輪を大きく広げていきます。

制度の理解と寄付の活用が“内なる力”ならば、赤いTシャツは“外への発信力”。二つの力が世界を変える力になります。

ロータリーは「夢を現実にする組織」です。私たちが「ポリオをなくした世代」として歴史に名を刻む日が近づいています。近い未来の10月24日、街中が赤いTシャツで埋め尽くされ、子どもたちの笑顔があふれる光景を想像してください。その時、ある子どもが言うのです。

「このTシャツ、この街のロータリークラブから始まったんだって！」